

建設防災 ボランティアニュース

No. 5

発行人 沼尻 孝
 編集人 城之内一成
 発行 東京都建設防災ボランティア協会
 事務局 (財) 東京都駐車場公社内
 横田マリ子、金田宗明
 電話 03-5381-3370

7月は河川愛護月間・8月は道の日の行事にボランティア会員参加

「河川愛護月間」の行事に参加して

(河川行事担当役員；金子義明)

7月は河川愛護月間として全国で各種行事が行われました。東京都は、①建設局河川部が中心になり都庁第二庁舎1階、都庁北側展望室で「川のパネル展」、「川の情報室」が開催されました。また、現地の河川では、②各建設事務所の主催、共催のもと「川を歩こう、環七地下河川を歩こう」「川の清掃＆川遊び」等の行事が行われました。

建設防災ボランティア協会は、一昨年から河川愛護月間行事に参加してきており、今年も盛夏の中、多数の会員の方々が参加して下さいまして大変有り難うございました。

②の川を歩こう」等の行事は、昨年ボランティアリーダーが中心になって各河川ごとに参加した関係もあり、今年は各事務所との連絡調整がスムーズ（一部を除く）に行き、8行事（10事務所）、42名の方々に参加して頂きました。

また、①の行事は今年度参加しない予定でしたが、新たに小学生を対象にした「川の情報室」を設けたことから、河川部から急きよ応援を依頼されました。「川の情報室」は7月22日から5日間、都庁第二庁舎で開催されました。期間中クイズに答えてくれた児童数は延べ175名でした。もう少しPRして来訪者を増やした方が良いと思います。

協会員の応援は延べ20名です。大変ご苦労さまでした。

「道の日」行事に参加して

(道路行事担当役員一雜賀 徹)

8月10日は「道の日」、皆さんご存じでしたか。なぜこの日が「道の日」かと申しますと、はじめての道路整備に関する長期計画が定められたのが大正9年8月10日。国交省はこの日を国民の休日にしようと署名運動を展開中。

さて、今年第16回目を迎えた東京都の「道の日」行事に協会が初めて参加することとなりました。行事の内容は行事初日8月8日の道路功労者と標語入選者の表彰式での受賞者の誘導役および8日から10日までの3日間新宿駅西口広場イベントコーナーで行われたパネル展示での案内役などで延べ23名の会員が参加しました。又、表彰式には多くの会員が一般参加者として会場を賑わせました。表彰式は1時間足らずの短い時間でしたが、道路標語の入選者が小・中学生であったこともあり、司会者のインタビューでのユーモラスなやり取りで会場をわかせる場面もあり、和やかな式でした。式終了後、「はじめての都庁訪問なので」と展望室に親子連れもありましたが、受賞者の多くは会員の誘導でパネル展示場へ移動し、入選作展示パネルの前で記念写真を撮ったり、クイズを楽しんで散会しました。パネル展示場では2人1組の会員が、日2班職員等と共に

来客の案内やクイズの誘導にあたりました。パネルを熱心に見られた来客の中には、専門的な質問やパネルにない情報を求める人もおりました。一方で会場付近を行き来する人の多くは催しにまったく関心を示さなかったのは残念です。もう少し内容に工夫が必要ではないかと感じました。

会場は空調が十分ではなく蒸し暑い中での4時間の立番は大変でした。皆さんご苦労様でした。

「わくわく川あそびイン落合川」に参加して

(北北建班—正井敏嗣)

真夏の7月21日の日曜日に、わくわく川清掃＆川あそび実行委員会主催の「わくわく川あそびイン落合川」が開催され、建設防災ボランティアの会員もこれに参加した。午前9時30分現地に集合した後、指定された黒目川を清掃した。

一方、小生は北北建の新井所長と一緒に、黒目川と落合川の合流点から上流、黒目川は西武線まで、落合川は上流端の小金井街道の近くまでを徒步により、河川の整備方法、管理の方法など話し合いながら点検した。

所長も小生も北北建の工事二課長として黒目川・落合川の整備に携わっており、5年後・10年後の姿をあらためてみなおし、ここは良くなつた、ここはこうすれば良かったなど、話がはずんで尽きなかつた。

その後、清掃も終わりイベント会場に集合して東久留米市長、都議、所長の挨拶があった後、我々は解散し、事務所の青木工事二課長と共に、東久留米駅前の中華料理店で昼食をとりながら懇談をした。

今年の「わくわく川あそびイン落合川」の参加者は北北建が所長を含めて11名、河川部防災課から2名、我々ボランティア会員が7名、総勢20名もの多くであった。

黒目川の清掃風景



川を歩こう（隅田川コース）に参加して

（一建・五建・江東治水合同班—林 定義）

去る7月7日、台風の襲来も懸念されましたが良い天候に恵まれ、江東治水事務所、第一建設事務所、第五建設事務所共催によるイベント〈川を歩こう・隅田川コース〉が行われました。

当建設防災ボランティア協会はこの行事への協力として一建班の5名が参加しました。各会員は、協会の名札、腕章を全員着用して、参加者の受付・誘導、そして各箇所の説明・案内等を各事務所の方々に協力して行いました。

隅田川コースは、水辺ライン両国発着場で水上バス《さくら号》に乗船しました。船中では沿川の建物、橋の由来、テラス護岸やスーパー堤防などを参加者の中に入れてそれぞれ質問に答えたり意見を聞いたりしました。参加者の中に隅田川の戦前の姿や戦後の変化を詳しく知っている初老の紳士がいてかえって当方が教えて頂いたりして恐縮し、冷や汗をかく場面もありました。

心地よい川風に吹かれながらの1時間の船による川とのふれあい、また川の中から見る街の風景を楽しみました。

越中島の発着所で下船し、ここから聖路加までは文字どおり川岸を歩くコースです。参加者67名を3班編成とし各班に担当をつけての行動となりました。途中、相生橋の中ほどで、それまで元気ではしゃいでいた3歳のお子さんが急に鼻血を出し、主催者の携行した救急箱が役立つというアクシデントもありましたが、皆さん隅田川の美しい風景に足取りも軽やかに感じられました。

近代的な高層マンションの立ち並ぶ大川端地区にはセーヌ川との姉妹河川を記念した広場がありシラク市長（当時）が記念植樹した「マロニエ」の木陰で一息というシャレタ場面もありました。この広場には隅田川を画題として写生している素人画家（たぶん）が数多く見受けられました。

造船所跡地の再開発の一環として整備したこの地区的スーパー堤防は地域の人々に深くとけこんで親しまれている様子を窺い知ることができたと思います。

本日の最終地点の明石町地区スーパー堤防は聖路加タワーとの一体化が見事で参加者も盛んに感心していました。

参加者67名がアンケートを提出し、満足げに帰っていく姿を目で追いながら、都会の中にはあっていつでも自然とふれあうことができる川が蘇りつつあることを実感しました。最後に本行事に我々会員に参加の機会を与えていただいた各事務所の関係者の皆様に御礼申し上げます。



隅田川越中島発着所から大川端を望む

川を歩こう「野川」に参加して

（北南建班—西田武文）

酷暑の中7月13日、北南建主催、都民参加による野川の観察会に我々防災ボランティアからも誘導補助係として5名が参加しました。

当日は、河川部から山崎改修課長、北南建の新井工事第二課長をはじめ、20数名の都民の参加を得て開催された。

午前9時半、野川第一調節池に集合、三班に分かれ十時出発。武蔵野公園内の野川、大沢調節池を経て大沢コミュニティセンターまで4キロの道のりを2時間半あまりかけての行程であった。

先ず集合地点で都会の中にまだこのようなオアシスがあったかと感銘を受けた。この野川は、武蔵野公園内を流れているということもあってか、河川管理者と公園管理者との見事な連携により生まれ出されたものであろう。治水と親水が調和した姿をみると、昔の野川を知るものにとっては、雲泥の差を感じます。

歩きはじめて気が付いたことは、河川水量が以外と多かつたことである。川の中には、泳ぐ鯉の姿が見られ、こさぎやカルガモの行列とも再三出会い、のどかかな風景に心がやすまる思いがした。しばらく歩き、立川段丘からの湧き水の見られる所で休憩となった。ここでも、前日の雨の影響か湧水量の多さと、その冷たさに驚かされ、子供たちが水遊びに興じているのを見るのも楽しく、自分達も童心に返った思いがした。しばらく公園内を散策した後、市街化の中を流れる野川に入った。公園を離れると、川の形態は突然に変わったが、ここでも管理用通路を最大限に生かしながら、自然との調和と工夫がされていることを感じた。

大沢調節池に到着し、新井課長から詳しい説明を受けた。例えば、低水路維持工事の草刈りは、生態系を配慮して低水路河岸から1、5メートル巾は草を原則として刈らないなどの工夫をしているとのことであった。

歩きながらの説明が非常にわかりやすく、充実した一時であった。共に野川を歩いた都民の方々からの「このような行事に今後とも是非参加したい」、「毎年やってほしい」、「他の河川、多摩川、隅田川等でもやってほしい」等の声がありました。野川には四季折々の風情と子供たちの笑い声が満ち、都会の中のオアシスとして頑張っているなどの思いで流れる汗と多少の足腰の疲れを癒しながら家路についた。今回の行事を企画し実行された北南建の皆様ご苦労様でした。日頃、川の管理に携わる職員に敬意を表します。



野川の散策風景

川を歩こう(谷沢川コース)に参加して

(七建班一新井国宏)

朝方、雨がパラツキはじめて心配されたが、参加者の集まりは順調で予定どおり午前10時に開会された。

参加者 総勢 37名…内訳 一般(世田谷区民) 24名、七建8名 当協会員 5名であった。

司会(内山工事課補佐)の進行により、米田副所長の挨拶に始まり、引き続いて吉岡係長(河川担当)が「川の話」と題して約40分、ビデオ映写をも併せながら

- 1) 川の役割
- 2) 治水の重要性
- 3) 洪水の怖さと被害

等について解りやすい説明がなされ、参加者からも活発に質問が出てくるなど非常に有意義なコミュニケーションの場となった。

前段のガイダンスが終わり、11時頃から集合場所(玉川区民会館)を後にして本日のメイン活動とした「私の好きな川を歩く」に出発した。

集合時の怪しげな空模様はすっかり晴れ間の見えるまでになり絶好の「歩く日」日よりとなった。七建職員の「旗」の引率に従い、谷沢川に架かる「ゴルフ橋」のたもとから「区立等々力渓谷公園」に入り川沿いの散策道を約1kmなごやかに歩いた。道中では所々に見られる湧水を観察したり、川に泳ぐ魚の群れを楽しんだり、最近ではあまり目にする事のない、滝に打たれる修行者の姿を見る等、都内ではなかなかの「秘境の地」という感じであった。

約40分程の散策で「川を歩く」の終着地「等々力不動尊」の境内に着いた。皆さん(女性、子供も)疲れを感じている様子もなく、ちょうど良い道程だったように思えた。

一般参加者には道中クイズラリーを考えたりチェックしながらという楽しみもあったようで、それぞれ賞品をもらい嬉しそうな盛り上がりの中で最後に副所長の挨拶があり、予定どおり、12時に散会になった。

我々防災ボランティア協会員は、七建の方々とは一言二言の挨拶程度のふれあいであったが、職員の皆さんと一緒に行動した(歩いた)ということで参加の意義はあったと考えたい。



谷沢川の散策

川を歩こう(多摩川コース)に参加して

(西建班一池野鎮雄)

東京都建設防災ボランティア協会西多摩建設事務所班は、東京都建設局河川部による、平成14年度河川愛護月間関連行事のうち西多摩建設事務所主催の「川を歩こう-多摩川コース-」に協力依頼を受け4名の会員が参加しましたのでその概要を報告いたします。

1. 実施日 平成14年7月7日(日)

2. 多摩川コースの概要

鳩ノ巣駅(集合)→玉川水神社→鳩ノ巣小橋→白丸ダム(魚道見学)→数馬峠→数馬西トンネル→多摩川南岸道路→つり橋(もえぎの湯)→奥多摩ビジターセンター(解散)

3. 参加者 総勢 56名…内訳 都民 27名(大人23名、子供4名) 都職員 15名 奥多摩観光協会ガイド 10名 建設防災ボランティア 4名

当日の予報では曇り一時雨と出ており、山岳部でしかも河川沿いの歩行は危険ではないかと危惧されたが、幸い好天に恵まれ一安心、午前9時JR鳩ノ巣駅前で受付開始、青梅線下り9時32分着の電車の到着をもって参加者を確定、全員を5班に分け、それぞれに都職員、協会ガイド、防災ボランティアを配置し準備完了。9時45分開会、西建谷村工事二課長の挨拶、奥多摩観光協会ガイド(名人、達人ガイドの会)紹介、コース及び注意事項の説明の後、ガイドの会代表によるストレッチ体操で体をほぐし、9時55分出発。

国道411号を横断し急坂を一気に下りるとそこが鳩ノ巣渓谷、小高い岩の上に玉川水神社が祭られている、ガイドの会員による鳩ノ巣の地名及び水神社の由来等説明を受けながら、鳩ノ巣小橋を渡り多摩川右岸の遊歩道を上流に向かいさかのぼる。多摩川の清流を眺め、川岸には山百合など山野草が美しい花を咲かせ参加者からは感嘆の声が上がる、しばらく登ると大きなダムが多摩川の流れを堰き止めている、東京都交通局が発電用に建設した「白丸ダム」である。

ここには、今回見学コースの最大の見所「白丸ダム魚道」がある、ダムの高さは30.3mで昭和38年完成以来、魚たちは遡上できず魚の道は、ダムで分断されていました。そこで建設省では、魚たちにとって、障害となっている白丸ダムに魚道を設置し「魚が住みやすい川づくり」を計画し平成5年4月より建設を開始、この度完成し東京都に移管された。

魚道のトンネル内は涼しく快適で、途中の魚溜りには大きな魚が何匹か見られた、この魚道をさかのぼることの出来る魚は、調査によると全体の約3%で超エリート魚といえる。魚道見学の後、再び右岸の遊歩道にもどり、ダム湖畔に沿いガイドの説明や、泳ぐ魚、野鳥のさえずり等を楽しみ、数馬峠を経て都施行の多摩川南岸道路に出る。綾瀬橋、東長畠橋を渡ると上流に奥多摩町のつり橋が見えてくる。

激しく揺れるつり橋を渡り多摩川左岸に出るとそこはふるさと創生事業で掘削した奥多摩町自慢の温泉"もえぎの湯"である。温泉は日曜日のため大変混雑しており、順番待ちの車の列を横目に、国道411号に出て最終目的地奥多摩ビジターセンターに無事到着。全員の到着を待って、原島センター長の事業説明、観光資料、記念品などをいただき、最後に谷合管理課長の挨拶をもって13時解散となった。



鳩ノ巣駅前 出発式

*新規会員の紹介と参考事務所*8月31日現在
日吉正男⇒北南建・小山幸也⇒西建・堀中逸⇒五建
小島信之⇒七建・若槻英次郎⇒四建・岸忠夫⇒西建

河川愛護月間行事「環七地下の巨大トンネルを歩こう」に参加して

(三建班一飯山鉄之助)

梅雨の合間の晴れた土曜日の朝、大勢の老若男女が杉並区の梅里公園に集まってきた。

この人たちは「河川愛護月間行事」として三建で計画された「環七地下の巨大トンネルを歩こう」に参加するメンバーであった。

この行事には父兄同伴の小学4年生以上の児童や町会の老人会の人などバラエティーに富んだ130人余の人たちの参加があった。

当協会、三建班には三建事務所から7名の協力要請があった。

要請を受けたリーダーは周辺班の協力も得て、全員8名で参加した。会員の業務はトンネル入り口部の受付案内と、階段部の安全誘導及び出口部の案内、整理などであった。

会員は3建の職員と協同でそれぞれの役割を分担した。

行事への参加者は5班に分けられ班ごとに入抗した。最終班が老人会のメンバーでもあったので、この人たちと一緒に入り口部を担当した会員も、トンネル内を歩くことにした。この老人会の参加者には最高84才の高齢の方を含め、80才台の女性の方が大勢いた。

高齢の方には会員が手を取って誘導案内しているほほえましい場面もあり大変参加者には喜ばれた。

行事の内容は七夕にちなんで色とりどりの短冊に願い事を書いて大きな笹に取り付けるところから始まった。

次にトンネル内1700メートルを歩き、飽きないで歩けるように途中5カ所にクイズの設問があり又中間点では暗闇を体験したり、壁面に各自マジックで記念のサインをした。さらにお出付近ではトンネルのインバールに水を流して小川に見立てて笹舟を流したり、クイズの正解者はヨーヨー釣りやスーパー Powell すくいを行うなど、アイディアに富んだ盛りたくさんの行事があった。

参加者はトンネルの入り口で撮った写真をお土産に皆さん満足げに三々五々帰途についた。

外は梅雨の中休みで屋下がりの日差しがトンネルから出たという事もあって大変まぶしく感じた。

参加者が満足げに帰る後ろ姿を見ながら、会員の方々も充実感に浸りながら事故もなく「ホット」して解散した。最後にアイディアに富んだ盛り沢山の出し物を企画された三建の関係者に敬意を表すると共に、我々会員に参加の機会を与えていただいた、竹内所長をはじめ関係者の皆様に厚く感謝いたします。



環七地下河川の内部を見学

ボランティア協会活動報告（7月～8月）

- 7月11日役員会 開催（役員の業務分担等打合せ）
- 役員会終了後、各リーダーに会長から委嘱状を交付
- 「河川愛護月間」「道の日」行事に協会員協力参加

「川を歩こう（石神井川コース）」に参加して

(四建・六建合同班一三原徹次郎)

その日<7月7日>は七夕の日、天の川に因んで開催日にしておられるというは、梅雨の真っ只中。雨天決行というので、雨具をバッグに忍ばせて出かける。あにはからず東京地方だけは快晴、それも猛烈な暑さ。午前9時30分が集合時間。しかし9時過ぎには既にほとんどの参加者が集合している。さすがに抽選で選ばれた人達。相当に気合が入っている。出発に際して四建伊藤課長の主催者挨拶、田島補佐の資料配布および見所案内等。老若男女総勢約50名、3班に分かれて出発する。

「川を歩こう」は河川愛護月間の一環として、東京都でも毎年開催されている。今年も「隅田川、野川、谷地川、多摩川、石神井川」の5箇所で開かれた。勿論これ以外にもフォトコンテスト、パネル展、施設見学会等が開催される。我々（建設防災ボランティア会員、加山、宮川、吉田、三原）はその石神井川コースに参加した。

石神井川コースは、旧中山道仲宿の板橋から北区飛鳥山側音無橋（JR王子駅そば）までの約6km。その間には、御成橋、加賀橋、加賀緑橋、金沢橋等がある。その名から知られるように加賀藩の下屋敷内を流れている。今も沿線には加賀藩所縁の遺跡が若干だが残っている。途中には河川改修の際に、ショートカットで存置したS型旧川敷の小公園が5箇所もあり、古い護岸や河床が当時のままに残されている。河川沿いの道路、その道を我々は歩いたのだが、そこには相当に太った桜並木が20m幅の河川に思う存分枝を伸ばし、結構な緑陰コースとなっている。お陰で猛暑の直射日光を遮ってくれた。

参加者は、職員の熱心な案内で、時に遠足気分、時に歴史の探訪者となり、今昔を偲びながら和気あいあいのうちに完歩した。それには案内を担当した職員が周辺の歴史を実によく勉強し、川の変遷や歴史保存へと話を進め、OBが施工当時の苦労話などを加えるなど、また大人の話に興味を失った小学2年生の子供には、課長自らが手をつなぎ、一手に友達役を引き受けた等の好連携プレーに寄るところが大きかったように思う。

しかし何よりも、この催しが本庁をはじめ第四建設事務所、第六建設事務所の周到な事前準備、すなわち参加者募集、当選はがきの送付、案内資料作成、懇切丁寧な説明資料の作成等、何ヶ月にも及ぶ努力の成果であることは疑う余地がない。「お蔭様で都市河川の役割がわかりました」

「再度来たいと思います」「今日は本当にありがとうございました」という参加者の声がそれをよく物語っている。ご苦労様でした。



石神井川の散策風景

編集後記

- 今号は、「河川愛護月間」行事を中心に編集しました。
- 「道の日」の道路標語に応募し、最優秀に選ばれた作品は、「車も人も自転車も みんななかよくとおるみち」（小2）でした。○次号は防災特集の予定です。（城之内）